

SDGsを達成するために私たちにできること
～食品ロスを減らすために～

令和5年度 荻田町立 荻田小学校

食品ロスに視点をあてた理由

私達が食品ロスを知ったのは、総合的な学習の時間です。総合的な学習の時間では、日本の食品ロスの現状を調べました。

日本での食品ロスの原因を調べてみると、大きく分けて二つありました。一つは、小売店での売れ残りや返品などの、事業系食品ロス(年間328万トン)。もう一つは、家庭から出る、家庭系食品ロス(年間284万トン)です。

私はこの現状を知って、事業系食品ロスの方が量が多いと思っていたので、量の違いがあまりなくて驚きました。

日本でも食品ロスが問題になっているということは、苅田町の課題ともいえるのではないのでしょうか。食品ロス問題を解消して、苅田町をより良くしてきたいと感じました。それが日本を良くすることにもつながると思います。

調べてわかった現状



今、日本の食品ロスの量は『年間約**523万t**』ということがわかっています。そして、1日分の残菜はどれぐらいかという、『日約**136g**』(お茶わん一杯分)を捨てているという計算になります。

また、食品ロスにつながる主な理由は「食品の**食べ忘れ、好き嫌い、食べられる部分もくきなど捨ててしまう、皮をむくときにみも削ってしまう**」などがあります。

さらに、今の苅田町の食品ロスの現状を役場で聞いてきました。すると、「減らそうと努力しても、**減らない状況にある**」と言っていました。

実際に苅田小でも給食の残が多いという問題があります。私のクラスでは、リーダー活動という活動で「**衛生リーダー**」というものがあります。衛生リーダーでは、給食の残菜を減らすために、残菜の写真を撮ってクラスルームに投稿したり、全員が配膳し終わるまでの時間を測り、給食時間を増やそうと努力しています。しかし、**残菜が0になることがなかった**という事実があります。先週、衛生リーダーが考えた「1号車だけは呼んで、2号車からは自分たちで判断して配膳する」という**を**実行すると、減ったことがわかりました。

改善するためにできること

【個人でできること】

- ・買い物に出かける前に冷蔵庫の中などの在庫を確認する。
- ・「安いから」という理由で安易に買いすぎる前に、食べきれるかを確認する。
- ・嫌いな物でも残さず食べきる習慣をつける。
- ・適切な保存方法で保存する。

【全体でできること】

- ・市町村による食品ロスの削減に向けた取組の支援。
- ・PRツールの配布や効果的なPRの方法の周知

おわりに



今回、発表するにあたって、グループで調べたことや日々していることについて話し合いました。話し合ったことで、隣のクラスでは「衛生リーダー」という活動をしていることを知り、食品ロスの課題を改善するために、私たちでもできることについてを深く考えました。

総合の時間で調べたことに加えて、子供議会のメンバーで調べたり話し合ったりして、日本でも荻田町でも食品ロスがたくさん発生していることがわかりました。

改善するためには、難しいことをやろうとしても続かなくなってしまうので、簡単で続けやすいことを意識してしていくことが、SDGsを達成することにつながると思いました。

これから、私は学校では、給食を残さず食べることを、家では、期限が切れそうなものから食べたり、適切な保存方法で食品を保存することなどを意識して、生活していきたいと思います。

